

美しい 県土づくりNEWS

知恵と工夫

2004年

Dec 12

岩手県県土整備部手づくり広報誌

美しい県土づくり NEWS5号

平成16年12月2日発行

編集 県土整備企画室

CONTENTS

Page 2	● 今月の人 海野技術参事兼道路建設課総括課長
3	● 新潟県中越地震災害派遣職員報告
6	● 県民参加・NPO等協働通信
8	● 知恵と工夫
9	● 美しい地域づくりを目指して
11	● 県土整備 TOPICS
13	● インフォメーション
14	● みんなの声
15	● データウォッチング
	● 土木建築作品

人と自然が共生し、みんなで支え育む雪谷川



雪谷川災害復旧事業、竣工！

増子内橋上空から

平成11年10月末の県北豪雨による未曾有の大災害からちょうど5年目の平成16年10月28日（木）、雪谷川災害復旧事業の竣工式が、昭和橋付近の河川敷にて開催されました。雪谷川の災害復旧は、延長18kmに渡り川幅を約2倍に広げるという大事業で、5年という短期間に実施するものでした。事業にあたっては、「人と自然が共生しみんなでささえ育む雪谷川」を基本理念とし、計画から設計・施工に至るまで地域住民と話し合いを持ちながら、住民参加の川づくりを進めてきました。また、雪谷川が本来有している多様な自然環境の保全・復元をはかることを目的とし、多自然型川づくりに取り組んできました。この事業によって、創出された空間及び施設は、四季を通じて利用され、交流が活発になるなど地域の振興にも資するものと期待されます。

●今月の人 独り言

技術参事兼道路建設課総括課長
海野 伸



今年も残すところ1ヶ月となりました。一年を振り返れば、酷暑、台風、大雨、地震と異常な気象現象が多く発生した年でありました。これらによる災害の状況を見ると、本年竣工した雪谷川や現在も復興工事を進めている砂鉄川の災害を思い出されます。被災され、いまだに避難所生活を送られている方々に、お見舞いを申し上げます。

また、被災地域での復旧支援のため、多くの職員が派遣され現地で活躍しております。心から頑張れとエールを送りたいと思います。

さて、ここ数年、歴史的建築物・建造物の保存の話題が注目を浴びてきております。特に、公共事業の実施に伴い解体・改変される場合注目されています。これらを残すことに、賛否両論はあるのは当然ではあります。

過去には、埋蔵遺跡で国道4号平泉バイパス新設工事での柳之御所保存のためのルート変更が記憶に新しいところであります。ルート変更の結論に達するまでには、事業者や文化財専門家、市民など関係者間での十分な検討を積み重ねた結果であり、大英断をしたと思っております。

古い物には、人々の生活や産業活動など昔の様子が見え隠れします。一旦破壊されるとその再現は困難であります。私たちは、生活の利便性や効率性を求めるが故に、その過去を捨て去ることが多くなってきたような気がしているのは、私だけなのでしょうか。

何でもかんでも残すことに執着するのも、如何かと思うことも多々あります。

しかしながら、私たちは、自分の物は大切にすると同じように、私たちの周りにあって、地域や県民、国民が大切だと思う物は、みんなで大事にしていく気持ちを持つことも必要であると思います。が、重要性、歴史的価値等が明確でなくても、単に古いというだけで残せと言う人もいます。公共事業を実施する側と古い物を守る側それぞれの価値観には差があるところではあります。お互いにその価値観を共有できるような議論を重ねることは必要だと思います。個々の主張だけでは、いい物も悪くなる場合もあるということ、お互いが考える必要があると思います。

時代に合った施設整備。それは、日常の産業や生活スタイルの変化や、利用者のニーズに対応して進めてきた結果として、過去の歴史を切り捨てざるをえない状況となったのもやむを得ないのかもしれない。

これからは、物に対する価値観が多様化していく中、今ある物を大切に、やさしく、未永く活用するようにしていきたいものであります。

以上、歴史的建築物・建造物を陰ながら愛する人間の独り言でした。

12月の主な 行事予定

● 第2回和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会

- 期日 12月2日(木)
- 時間 13時30分～15時
- 場所 北上合同庁舎
- 担当 北上地方振興局土木部

● 新直轄連絡調整会議

- 期日 12月7日(火)
- 時間 15時～16時30分
- 場所 県庁12階特別会議室
- 担当 道路建設課

● 地域県政懇談会

- 期日 12月10日(金)
- 時間 13時30分～15時30分
- 場所 二戸合同庁舎大会議室
- 担当 二戸地方振興局土木部

● 砂鉄川鶴巻橋開通式

- 期日 12月10日(金)
- 時間 10時～11時
- 場所 鶴巻橋
- 担当 千厩地方振興局土木部

● 甲子川の明日を考える会

- 期日 12月14日(火)
- 時間 18時～20時
- 場所 釜石市役所
- 担当 釜石地方振興局土木部

● 第146回岩手県開発審査会

- 期日 12月16日(木)
- 時間 10時30分～12時
- 場所 盛岡合同庁舎
- 担当 都市計画課

● 第8回築川ダム周辺自然環境検討専門委員会

- 期日 12月16日(木)
- 時間 13時30分～15時40分
- 場所 事務所内会議室
- 担当 築川ダム建設事務所

● 第1回盛川ヨシ焼き検討会

- 期日 12月17日(金)
- 時間 13時30分～15時30分
- 場所 カメリアホール
- 担当 大船渡地方振興局土木部

● 一般国道4号波民バイパス開通式

- 期日 12月18日(土)
- 時間 10時～13時
- 場所 玉山村
- 担当 道路建設課

● 住民参加・NPO協働地域懇談会(釜石地区)

- 期日 12月21日(火)
- 時間 13時30分～16時
- 場所 釜石合同庁舎
- 担当 釜石地方振興局土木部

● 住民参加・NPO協働地域懇談会(盛岡地区)

- 期日 12月22日(水)
- 時間 17時30分～19時30分
- 場所 盛岡合同庁舎
- 担当 盛岡地方振興局土木部

● 第4回いわて都市政策研究会

- 期日 12月22日(水)
- 時間 13時～16時30分
- 場所 一関市
- 担当 都市計画課

● フォラム「地域の景観を考える」

- 期日 12月23日(木)
- 時間 11時～17時
- 場所 エスポワールいわて
- 担当 都市計画課

特集

新潟県中越地震災害 派遣職員報告

10月23日に発生した新潟中越地震での公共土木施設、高速道路、新幹線等のインフラの被害額は、11月17日現在で1兆2千億を超え、阪神大震災以来の大災害となっております。

このような状況の中で、県内各自治体の職員も10月末より新潟県に派遣され、災害復旧支援を行っております。今回は道路、住宅、下水道の復旧支援状況について、第一陣として現場で作業をされた方々の活動の様子をご紹介します。

道路復旧支援の様子

境界ブロック・歩道の沈下



道路をふさぐ倒壊した建物

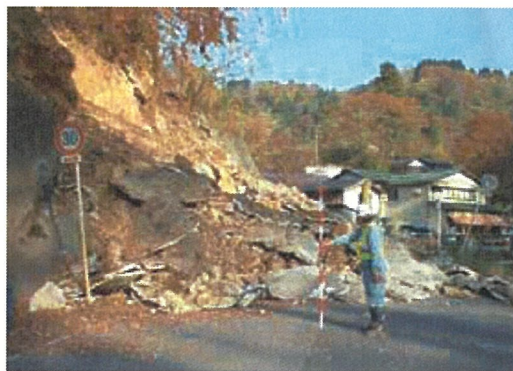


○業務内容

業務は「道路」（橋梁・トンネルを除く）の災害復旧（被災箇所の調査、復旧方法の検討、査定設計書の作成等）に関する事。11月1日～14日までの派遣は、北は北海道から南は長崎県までの16都道県が長岡・小千谷・小出・与板の各地域整備部および維持管理事務所での業務にあたり、岩手県派遣団は長岡地域振興局地域整備部に派遣されました。

はじめに、被災箇所を把握するため調査を割り当てられた県道8路線（約60km）を8日間かけて現地調査し、調査結果をもとに災害査定の申請箇

法面が崩壊し道路をふさぐ



家屋が地盤ごと道路へ傾く



所・範囲を決め、復旧方法の検討を行ないました。

今回の震災は被害規模が非常に大きく査定方法を通常の災害と比較して簡素化する方針も出されました。復旧図、査定設計書、目論見書の作成等の作業は中期派遣の方へと引き継がれることとなりました。

○中越地震の現場を見て

家屋の倒壊や多くの道路施設の被災状況はこれまで見たことのないものであり、自衛隊の仮設テントや脱線した新幹線などテレビで見た光景を目の当たりにして、今回の地震の凄まじさを感じ、万が一の大災害に対する備えについて考えさせられました。

下水道復旧支援の様子

越路町①



②



③



④



小千谷市



○現地の被災状況は？

私たちは、柏崎市、越路町、小千谷市に入りましたが、小千谷市が一番被害が大きかったようです。ただ、下水道に限ると越路町の被害が大きく感じました。液状化の影響でマンホールの浮上が多く見られました。

○現地ではどのような作業をされたのですか？

目視による路面状況やマンホールの損傷、マンホール内の滞水状況を確認しながら現地を歩きました。災害調査用紙に被災状況を記入し、ポールをセットして写真を撮りました。現地から帰ってからはそれらの資料整理に追われました。

○地元の市町村職員の様子はいかがでしたか？

皆さん役場に寝泊りしながら仕事にがんばっているようでかなり疲労されている印象でした。ただ、食べるものはひととおりに行き渡っているようで、逆におにぎりの差し入れを受けました。

○その他、今回の応援で印象に残ったことや考えたことはありますか？

情報の一元化が必要だと思いました。役場では、同じ事を何度も報告するので、多少疲れているようでしたし、本部は現地の情報をうまく整理されていないようで、作業の段取りにも支障が出ていました。

○最後に何かありますか？

岩手で同様な被害が発生したとき、実際に対応できるように対策を講じなければならないと強く感じました。

表. 災害派遣職員主な作業日程表

市町村	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日
岩手県(3名)	岩手県 出発 ⇒本部 (新潟市) 打合せ	越路町 打合せ	越路町 現地調査	越路町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	
釜石市(3名)		和島村 資料整理					
江刺市(2名)			出雲崎町 現地調査	出雲崎町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	帰路
金ヶ崎町(1名)		出雲崎町 現地調査					
一関市(2名)			出雲崎町 現地調査	出雲崎町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	帰路
川崎村(1名)		出雲崎町 現地調査					
紫波町(2名)			出雲崎町 現地調査	出雲崎町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	帰路
山田町(1名)		出雲崎町 現地調査					
久慈市(2名)			出雲崎町 現地調査	出雲崎町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	帰路
二戸市(1名)		出雲崎町 現地調査					
水沢市(2名)			出雲崎町 現地調査	出雲崎町 資料整理	小千谷市 現地調査	帰路	帰路
前沢町(1名)		出雲崎町 現地調査					
盛岡市(6名)			栃尾市 現地調査	与板町 現地調査	本部 資料整理	帰路	

特集

新潟県中越地震被災建築物応急危険度判定士派遣報告

1. 派遣の概要

「被災建築物応急危険度判定」は、地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊の危険性および落下物の危険性等を速やかに判定し、その被災建築物の使用にあたって危険性の情報を提供することにより二次的災害を防止することを目的として行うものです。

岩手県では、新潟県からの支援要請を受け、10月27日から11月9日にかけて、県、盛岡市、花巻市、一関市から、延べ24名の判定士を新潟県中越地区へ派遣し、判定業務を実施しました。

2. 判定業務の内容

	第1派遣	第2派遣	第3派遣	計
派遣人数	10名	10名	4名	
派遣日程	10月28～29日	11月1～4日	11月7～8日	
派遣場所	長岡市、見附市	長岡市、越路町	越路町	
判定件数	212	469	77	758

3. 被災状況

被害の大きい建築物は、建築基準法上問題のありそうな建物、配置的・構造的にバランスが悪い建物、軟弱地盤に手当てをしていない建物が多いと感じました。

個人の財産に「危険」や「注意」のステッカーを貼るのは勇気のいる判断でしたが、地元の方が我々を必要としていることが実感され、感謝されたことを励みに判定活動を実施することができました。

判定状況の様子



県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO などとの協働事例を紹介します。

「雪谷川 結いのみちづくり事業」 ～住民と 足並みそろえ 道路舗装～

○ 結いのみちづくり？

材料は他の現場から出た廃材などでまかない、地域住民と町・県の職員が協働で道路を舗装する——。こんな試みが、本年度災害復旧事業が完了した雪谷川の管理用通路で行われました。

雪谷川は軽米町中心部を流れる県管理の河川で、平成11年に岩手県北部を襲った豪雨により河川が氾濫し甚大な被害が生じたため、H11～H16の間、災害復旧事業に取り組んで来た河川です。その雪谷川の管理用通路は幅 3.0m の砂利道となっていますが、15 年度に行われた地域県政懇談会の中で、雪谷川地域住民の代表から「通学路や散策路として利用されているが、砂利道で歩きにくい。また草刈りもやりづらい。舗装して欲しい」という要望がありました。

通常、管理用通路の舗装は行われませんが、二戸地方振興局土木部ではなんとか地域住民に、長く大事に雪谷川を使って欲しいという思いがありました。また、岩手県では「県民参加のガイドライン」や「県民参加推進プログラム」が策定され、県民による公共事業の推進が強く求められている時期でもありました。ならば、「お金はあまりないけど、みんなで一緒に舗装してみようか!!」、そのようにして生まれたのが「結いのみちづくり事業」です。



○ みんなで舗装しましょう！

「結いのみちづくり事業」は H16,17 の2カ年に、県の地域活性化事業調整費を充てて行われることになり、今年度は軽米町市街地部を中心に約 1.5km の舗装を行いました。

記念すべき第1回目の舗装は 10月24日(日)、当日は天候にも恵まれ、雪谷川流域の地域住民、軽米町長を始めとする役場職員、振興局長を始めとする県職員、総勢約 70 名が軽米地区に集まりました。

作業は次のような流れで行われました。

1) 草刈り・かき起こし

管理用通路には草が生え、でこぼこであったため、事前に草刈り、機械を使って砂利のかき起こしをしました。

2) 材料荷下ろし、敷き均し

4t ダンプを使って A s 切削材等の材料を荷下ろし、それをみんなでスコップを使って敷き均しました。始めは気合いを入れてやるのですが、結構な重労働ですぐ腰が痛くなり、日頃の運動不足を実感しました・・・

3) 路面整正・転圧

敷き均した材料をレーキで整正、その後、振動ローラーで転圧します。ここまできるとだいぶ道路らしくなってきます！

4) 乳剤散布・砂散布

転圧した道路を固めるためアスファルト乳剤をまきます。ベニヤ板を持って乳剤が飛び散らないようにするのですが、素人であるため、乳剤がかかり作業着はバタバタ真っ黒に。最後に砂をまいて完成です!!

施工前



施工後



初めての作業にもかかわらず作業は順調にすすみ、約 700m の延長を舗装することができました。

第 2 回目の舗装は 11 月 21 日(日)、小軽米地区、下円子地区で行われました。約 60 人の方々が一緒に汗を流し、約 800m の延長を舗装することができました。作業が終了したとき辺りはもう薄暗くなっていましたが、出来上がった道路を見たとき、なんとも言えない充実感がありました。

○コスト縮減にもなりました！

通常、延長 1.5km の道路をアスファルト新材を使って舗装すると、約 400 万円の工事費が必要になりますが、今回は舗装材料は他の現場からでた切削材を利用、作業員はほとんどボランティアの方でまかだったので、およそ 190 万円で舗装することができました。また、この事業がきっかけとなり地域愛護意識が高まり、管理の一部をこれからもお願いできれば、維持管理費用縮減にもなります。

住民との協働は、コスト縮減にも繋がるのです。

【当日の作業の様子】

①荷下ろし



②敷き均し



⑤レーキ



⑥転圧後



③敷き均し



④整正



⑦乳剤散布



⑧乳剤散布



○おわりに

今回、無事トラブルもなく第 1、2 回目の「結いのみちづくり事業」を行うことができました。当初は初めての経験で不安な部分もありましたが、「作業は大変だったけど、こんな経験ができてよかった」、「ちょっとでこぼこだけど、歩きやすくなって嬉しい」といった声が住民の方から聞かれ、二戸地方振興局土木部としてはとりあえずほっとしているところです。また地域住民が一所懸命作業している姿からは、災害を乗り越えてきた人々の力強さも感じることができ、これからも行政と住民が一体となって、雪谷川を守っていければなと思いました。

「結いのみちづくり事業」は、地域住民との協働による社会資本整備のモデル事業的に行われたものですが、単に道路が歩きやすくなるだけでなく、地域愛護精神の向上やコスト縮減など、様々な効果が期待できることが確認できました。「結いのみちづくり事業」は来年度まで行われますが、この事業にとどまることなく、他の事業・他の現場へ、このような取り組みを広げて行きたいと考えております。

「道路管理情報システム」

ケータイが変える道路パトロール

■ 効果 時間を約3分の1に短縮。

他にも、専門工事会社へ補修内容を伝えるなどの二次利用も可能。

1 はじめに…「何が」「どこで」「どのように」

道路管理者にとって、「何が」「どこで」「どのように」破損しているのかという情報を、できるだけ速く得ることが、その後の対応を考えるうえで大変重要です。

しかし、「何が」は伝えられても、「どこで」「どのように」をことばで正確に伝えることが難しい場合もあります。この課題は、現場から位置（地図）と写真を画像情報として伝えることができれば解決できます。

そこで、今回の「知恵と工夫」では、カメラ付携帯電話を使つての「道路管理情報システム」について紹介します。

2 システム導入の効果

北上地方振興局では、民間業者へ委託している道路パトロール業務において、GPS（人工衛星を利用した位置情報システム）とカメラ付き携帯電話を使った「道路管理情報システム」（位置情報画像掲示板システム）を平成15年度から採用しています。

このシステムを委託業者との連絡手段として使ったところ、道路の破損箇所を発見してから修復までの時間が、これまでの約3分の1程度に短縮することができました。簡単な補修や草刈程度ならば、報告から1時間以内で処理できたケースもあります。

従来のように、委託業者が現場から振興局へ駆けつけ、状況報告を行ってから指示を待ち、また現場へ戻って処理するやり方では実現できなかった速さです。

3 システムの仕組み

「道路管理情報システム」は次のような仕組みです。

道路パトロール受託担当者が道路の不良箇所を発見した場合、まずは破損現場を携帯電話のカメラで撮影します。この状況を説明するコメントとともにインターネット上の「道路管理情報システム」サーバーに電子メールで送信します。GPS 付きの携帯電話を使っているので、位置情報付きの画像ファイルが送信されます。振興局では、各自のパソコンから「道路管理情報システム」サーバーに接続し、誰もが破損状況を見ることができます。さらに、位置情報もついているので、電子地図上で正確な位置を確認できます。振興局では個々の情報に対して指示コメントを書き込んでいくといった仕組みです。

GPS による道路の位置情報



このシステムを有効に活用し、道路の破損箇所等を「より早く、正確に、適切に」修復し、みなさんに安全に安心して利用できるように管理していきます。

美しい地域づくりを目指して



～第2回 滝沢村柳沢地区～

盛岡地方振興局土木部

私達は共に行動し支援します
私達は岩手山麓・八幡平周辺重点地域周辺の美しい地域づくりに住民の方々と共に行動し支援しています。
今回はその一つとして滝沢村柳沢地区のらしさ探しと活動状況について紹介します。



茅葺屋根の伝統的な農家と酪農農家
対比するといかがか



酪農農家独特のサイロは
時を経たトタン葺のマンサード屋根と
牧歌的なファサードが安らぎをあたえる



稔りと耕作 農家の営みが美しい景観を創っている



岩手山と山麓田園風景 視点場の違いが新たな景観を形成する



防風林が自然景観のワンポイント



沿道から見えるカラマツ林
木々の隙間から見える風景と光が爽やかさを感じさせる



発見！ カタクリの群生地 蜜の住むせせらぎ 道路と桜のアーチ



冬景色・白と黒の世界



まさにこれが看板。看板でその様子がわかる



たそがれ時の柳沢

○ 柳沢地区の歴史

柳沢地区は、滝沢村のほぼ中央に位置し、岩手山、姫神山をはじめとする山々を望むことができるほか、川や牧草地など自然豊かな地区です。

地区の中には岩手山神社や岩手山登山の表玄関である馬返し登山口があるなど、古くから岩手山とのかかわりが深かったと推察されます。

第二次世界大戦後には、県外からの開拓者が移り住み、酪農を始めました。現在は滝沢村の中でも酪農が盛んな地区となっています。

美しく、その反面厳しい自然と、その自然と闘いまた共存してきた開拓者の方々の苦難や忍耐などのおかげで、この地区の景観がつくられ、この地域のらしさが作られてきているのだと思います。

○ 新たな風と地域づくり

酪農家のほか、最近はこの地区の自然の美しさが気に入り、移り住んだ方もいるようです。

その方たちの中には、漆器、磁器、陶器、木工家具、ガラス食器等の工芸家の方々がおり、この方々は平成8年度に岩手山麓工芸会を結成、「岩手山麓工房まつり」などを開催し、展示即売、産直・手打ちそば、のだてなどで県内外からの来客を得ています。

また、岩手山麓工房まつりで農産物・岩魚販売を行うため、農家で構成された「柳沢いいものまるとネットワーク」や、滝沢村の分れから馬返し登山口までを桜並木にするため千数百本の苗木をうえ、現在はその管理に取り組んでいる「さくらの会」など、地域の方が参加した取り組みが盛んな地区でもあります。



○ 景観に関する取り組み

滝沢村では平成11年度に地域デザイン推進要綱を策定しております。この要綱は、滝沢を10地区に分け、それぞれの地区において、住民が主体となり本当にやりたいことを決定し、住民が進めていくという趣旨のものです。柳沢地区においても、まちづくり委員会を組織し、その下に3つの部会（土地の利用と保全交通通信部会、コミュニティ部会、うるおい部会）をつくり、活動しています。

景観形成についての活動をしているのは「うるおい部会」であり、今年度から景観形成住民協定締結に向けての具体的な活動を始めています。

今年度の地域住民を対象とした活動は、次のとお

りです

(1) まちづくり委員会勉強会（7月24日（土）開催）

講演内容：

① みんなで考えよう美しい景観 （盛岡地方振興局土木部 鍋倉次長）

- ・ 景観形成推進に関する県の取り組み
- ・ 県内の住民協定締結の状況
- ・ 柳沢のらしさ探しの発表

② 農山村快適環境づくり活動事例紹介 （前葛巻町小田部落会事務局長）

- ・ 景観形成住民協定を締結した葛巻町小田部落会の締結までの取り組みと現状

(2) 農山村快適環境づくり活動先進地視察研修会 （9月5日（日）開催）

場所：

葛巻町小田部落（景観形成住民協定地区）

(3) 柳沢「お宝」発見ウォーキング（10月17日（日）開催）

内容：

柳沢地域内を4班（岩手山神社周辺、一王子周辺、卯遠坂周辺、上郷周辺）に分れて散策。自分がお宝だと思うものを撮影し、発表。その後、班ごとにマップ作成。



○ 景観形成住民協定締結に向けて

うるおい部会では、来年度はアンケート調査やより具体的な協定の内容を勉強し、素案の作成するところまでを活動目標としています。

振興局においても、今年度同様、地元のみなさんと共に活動し、支援をしていきたいと考えております。



西光寺保育園の園児から勤労感謝

11月5日(金)

11月5日(金)に西光寺保育園の園児約40名が黒沢橋上部工工事現場事務所を訪れ、現場代理人を含めた9名の作業員に手作りカレンダー及び生花を手渡しました。毎日、通学路として利用されている園児達が、一生懸命に働く作業員の方々を見て、「自分達が毎日安全に通れる道路を作っている方々に対し、感謝を述べたい」ということで実現したものです。作業員の方々も孫と同じ位の歳の園児とあって、照れながらも嬉しそうに園児達に接している姿が見受けられました。

現在進めている黒沢橋上部工工事は、自転車歩行者の通行を確保するべく仮歩道橋(仮栈橋)を設置しております。



町道小繫沢湯田線が開通

11月25日(木)

11月25日(木)、町道小繫沢湯田線が開通しました。この路線は、国道107号と主要地方道盛岡横手線を結ぶもので、東北横断自動車道秋田線湯田ICへのアクセス道路としての地元湯田町はもとより、沢内村からも早期開通が望まれていました。平成6年度から県代行事業として整備が開始。延長約3km、事業費は約25億円(県及び町)。

当日は、現地にて安全祈願祭、テープカットが行われた他、祝賀会では、地元の子供たちによる「鬼剣舞」、「和太鼓」などのアトラクションもあり大いに盛り上がりました。10年という長い年月の間、多くの方々が携わりご尽力いただき、無事開通することができました。この場を借りて感謝申し上げます。



胆沢川の廃棄物収集作業

11月6日(土)

「環境いさわ21」主催による、胆沢川の廃棄物収集作業が11月6日(土)、胆沢町若柳地内の胆沢川右岸において約100名が参加して行われました。当日は、大型家電類はなかったものの、壊れたガラス瓶やタイヤ等を怪我をしないように慎重に収集しました。

天候に恵まれた事や参加者が予想以上に多く胆沢町役場から収集車の協力を頂いた事から、作業も順調に進み、予定時間で終了することが出来ました。

最後に、地元の人達による「炊き出し」で「おにぎり」と「芋の子汁」をご馳走になり、空腹と疲れを癒し解散しました。主催者側は、いずれ川原の見えるスペースを作り、自然とのふれあい活動ができるようになればと話していました。



吸川リレー探検隊、いざ出発!

11月13日(土)

吸川をきれいにする会が主体となっており、『吸川リレー探検隊』が11月3日(水)、6日(土)、13日(土)の3回にわたり開催されました。11月6日(土)は、南小学校から一関駅東口までの区間を探検しましたが、なんと鮭の遡上が確認されました。今まで『吸川』に関わってきた皆様の努力の結果だと、参加者一同、感激いたしました。

また、11月13日(土)は、一関駅東口～磐井川合流点を胴長靴を履きながら、採取網やカメラを携帯し、吸川を歩いて探検しました。いつもとは違う目線で川を歩くことで、川の段差に気づいたり、体長20cmの「ハヤ」も発見されました。中学生も小学生もゴミ拾いを率先して行っていました。



花巻空港、無事検査合格!!

11月9日(火)

11月、花巻空港において国土交通省による①省令改正に伴う航空灯火の改良、②滑走路延長に伴う航空灯火の新設、③滑走路延長に伴う土木施設の新設及び改良、④飛行検査の四つの検査すべてが無事終了し、航空路誌改定・供用開始手続きを経て、来年3月の供用を待つのみとなりました。

これまでに地権者の方々の多分なる御協力や、国・市町村等の関係機関を始めとする皆様に多大な御理解と御協力を頂いた賜物であると、当所職員一同深く感謝しております。

なお、今回は省令改正に伴う航空灯火の改良と滑走路延長に係る暫定供用ですので、引き続きターミナル移転が継続され、又5年後の再評価により並行誘導路整備が再開される予定です。



ぎんがのもり宝くじ桜植樹祭、開催!

11月13日(土)

11月13日(土)に「ぎんがのもり宝くじ桜植樹祭」を開催しました。また、翌日14日(日)は恒例の月一イベントの開催日であり、その日に植樹したいという声も多数あったことから、二日間にわたり開催しました。

二日間で、約65名の方が参加し、桜の苗木を200本植樹しました。天気にもなんとか恵まれ、多数の県民の皆さんにご参加いただきました。ご協力いただいたみなさま、大変ありがとうございました。

皆さんが植えた桜の木を大事に育て、緑豊かな「ぎんがのもり」にしていきたいと思っております。



御所湖広域公園で茅葺市、開催

11月28日(日)

11月28日(日)、御所湖広域公園の南部曲り家で『茅葺き市』が開催されました。

南部曲り家の茅葺き替え工事の完成を前にフリーマーケット、餅つき等を行い、たくさんの方々に来ていただこうと企画されたもの。

当日は、寒い中、300人ほどのお客さんに来て頂き、一時は、中が人で埋め尽くされるほどでした。

来年度も公園、曲り家の利用促進のためにも、地元と協働して、開催したいと思っています。

なお、12月1日放送の「IATスーパーJ」で、茅の生産、茅の職人養成、御所湖曲り家の茅葺きの様子、茅葺き市等が放映されました。



釜石港でテロ対策訓練、実施!

11月25日(木)

11月25日、釜石港において、釜石港保安委員会(釜石海上保安部、釜石警察署や港湾関係、釜石地方振興局土木部長(委員長))主催による「テロ対策訓練」を実施しました。これは、国際船舶・港湾保安法の施行に伴い行なわれたもので、当日は約120名の方が参加しました。

訓練は、「テロリストが乗船している可能性のある貨物船が釜石港に入港しようとしている」といった想定で行われ、「船内の立入検査」・「洋上追跡」・「X線検査」・「テロ制圧検挙訓練」を実施しました。

湾内で自動小銃を発砲するなど、テロに対する緊張感のある訓練でした。

Information

募集等
のお知らせ



●「空港利用促進の新たな10の取組み」が決まりました！！

花巻空港の利用促進策についてのアイデアを募集したところ、積極的に応募いただき、誠にありがとうございました。

提案いただいた促進策を含め、航空会社・旅行業協会・観光協会等の関係者との意見交換会、盛岡商工会議所空港関係委員会、課内ワークアウトにより利用促進策について広く検討し、必要性及び実効性の高いものを「**空港利用促進の新たな10の取組み**」として16年度及び17年度の2カ年に渡って実践することとしました。

皆様のご協力に感謝するとともに、今後とも、引き続き、花巻空港の利用促進についてのご協力をお願いします。

空港利用促進の新たな10の取組み

- 1 ターミナルビルのサービス向上
 - ①課題 空港アメニティーの改善が必要
 - ②目的 「岩手の空の玄関」に相応しく、利用者に満足いただける空港ビルにするため、空港機能の拡充と利便性の向上を図る。
 - ③実施主体 ビル会社、テナント、JAL、管理事務所
- 2 中部国際空港活用対策
 - ①課題 中部国際空港での乗継による利便性の向上や中部空港を利用した外国旅行商品が必要
 - ②目的 中部国際空港の開港や愛知万博の開催を契機として、海外及び中部地方との交流の活性化を図る。
 - ③実施主体 旅行代理店、JAL、県外事務所等
- 3 千年の古都「平泉」プロジェクトとのタイアップ
 - ①課題 観光資源を盛込んだ魅力ある旅行商品の造成やそのPRなど、観光との連携強化が必要
 - ②目的 平成17年の大河ドラマ「義経」放映等、全国への県内観光・文化資源の情報発信を契機とした観光と交流の活性化を図る
 - ③実施主体 事務局、県、県観光協会、旅行代理店
- 4 会員等への呼びかけ
- 5 修学旅行での利用促進
- 6 空港愛称の決定
- 7 沖縄線の運航拡大
- 8 国際チャーター便運航拡大
- 9 空港アクセス対策
- 10 ダイヤ等の改善

受賞
のお知らせ



●「手づくり郷土（ふるさと）賞」地域整備部門で蔵のある街づくり（江刺市）受賞！！



平成16年度「手づくり郷土（ふるさと）賞」[地域整備部門]で、「蔵のある街づくり」江刺市中町地区が見事、受賞いたしました。そして、12月1日に仙台市で、東北地方整備局長から江刺市長に認定証が伝達されました。

【地区の概要】

岩手県江刺市の中町地区では、中心市街地の空洞化が進み、新たな街並み整備への機運が高まる中、街路等の整備とあわせ、現存する「蔵」の歴史的な建物を保存・活用するため、地元住民らが立ち上げた「中町まちづくり実行委員会」と連携を図り、商店など建物の意匠、形態や歩道・広場の維持管理などにも検討を重ね、和風感覚を基調としたまちなみづくりを官民一体となって行った取り組みです。

これにより、伝統的な郷土芸能を披露する場としても利用され、文化の伝承に繋がるとともに、商店街の若手有志によるガラス工房やオルゴール館など蔵を活かした積極的な取り組みもみられ、年間7万人程度であった観光客が、現在では約20万人に増えています。



みんなの声

2 opinion/idea/proposal/recommendation

1 opinion/idea/proposal/recommendation

築川ダムの高さを低くすることにより、100億円の節約になるということだが、既に用地買収した箇所については、余分に用地を買いすぎたのではないかと。また、買いすぎたとすれば、いつその金額を返還してもらえるのか。

地質が悪い箇所にダムを計画したとのことだが、計画段階で地質を調査し、しっかりとした箇所に作れば余計な工事費がかからなくて済むのではないかと。この用地選定ミスに関する工事費の返還はどうなるのか。

2004/07/02/盛岡市/知事ホームページ

築川ダムの高さは、利水者の計画の見直しにより低くなる予定ですが、この差分の用地の取扱については、利水計画の変更で生じたことから、利水者である盛岡市などにおいて検討することになります。

一方、都市化の進展が著しい築川の治水対策として、「河川改修」案、「放水路トンネル」案、「宅地等の嵩上げ」案、「遊水地」案、「ダム+河川改修」案など、様々な手法について比較検討を行った結果、「ダムと河川改修」を組み合わせた手法が、経済性や地域に与える影響、環境面等から最も望ましいと判断しており、このような検討の中でダム建設予定地は、これまでの地質調査の結果からダムの基礎として十分な強度を有している位置を選定しており、その他の箇所に比較して適地であると考えています。

今後、さらに技術的な検討を行い、コスト縮減を図るよう努めていきたいと考えています。

3 opinion/idea/proposal/recommendation

高齢化社会に向かっている中、現在の県営住宅は若い人向けの住居として作られており、高齢者が暮らしにくく安全性についても問題がある。これからはオール電化住宅に変えていくべきだと思うし、現在強く早期の対応の必要を感じている。東京よりもむしろスウェーデンやスイスなどの公営住宅の事情を参考に検討し、暮らしやすい住宅を提供してほしい。

2004/07/05/盛岡市/電子メール

県営住宅では、平成3年度から床の段差解消や手すりの設置等、バリアフリー仕様による整備を行っています。また、平成5年度からは3階建て以上の住棟へエレベーターを設置するなどの高齢化社会へ対応した整備を行っています。

なお、オール電化住宅やコレクティブハウス等については、先進事例などを参考に今後の検討課題としていきたいと考えています。

借金県土を作った一番の要因は何か。公共工事等、激減予算で回復できるのか。できなかった場合、今後、岩手県はどのようになっていくのか。

2004/07/23/盛岡市/懇談会

結果として財政が厳しくなった要因は、この10年間、国の経済対策に呼応して公共事業を推進してきた結果、社会資本の整備が進んだものの多額の公債残高を抱えることとなったほか、長引く景気の低迷による法人所得の減少などにより、県税収入や地方交付税の交付額が大きく落ち込んだことなど、いくつかの要因があります。

このため、公共事業については、昨年10月に策定した「岩手県行財政構造改革プログラム」の中で、限られた予算の中で投資効果が最大限発揮できるよう、真に必要な事業の「選択」と「集中」を徹底し、事業の早期完成やその効果の早期発現に向け、継続箇所を重点的に整備するとともに、新規箇所については、緊急性・必要性の高いものを厳選し、採択することとしています。

本県としては、「行財政構造改革プログラム」を進めることにより、「自立した地域社会の形成」を目指し、地域に真に必要なものは何かを県民自ら判断、決定していただきながら、県民が「心の豊かさやゆとり」を実感し、安心して暮らせる社会を実現できるために、質の高い行政サービスを提供できる行政経営体になっていこうとしているものです。

4 opinion/idea/proposal/recommendation

測量設計業界では、普通に計算すれば仮に百万円の仕事を、十万から三十数万円ほどで落札し、人件費すら稼げずにつぶれたり廃業したりする会社も出てきている。

公共事業の工事では、落札には下限がある。測量や調査も同様の対応が必要ではないか。他の公共事業業種もすべて、最低落札額を決めて欲しい。

2004/07/29/盛岡市/その他

県や市町村が実施する建設工事や測量設計業務など公共事業の発注については、地方自治法上、最低金額で落札したものと契約を締結することが原則とされています。しかしながら、入札参加者による価格競争によっては、予定価格を大きく下回る金額で落札するケースも見受けられ、場合によっては、発注者が期待する適正な成果が確保できず、結果として県民に損害を与える場合も想定されます。

そのため、建設工事については、既に最低制限価格制度や低入札価格調査制度を導入していますが、測量、設計等の業務については、2002年3月に法令が改正され、こうした業務についても、最低制限価格制度等を適用することが可能となり、現在、県において導入に向けて検討しているところです。測量、設計等の業務は良質な社会資本の整備において欠くことのできない役割があり、県は今後とも業務の適正な履行が確保されるよう、必要な制度の改善に努めていきます。

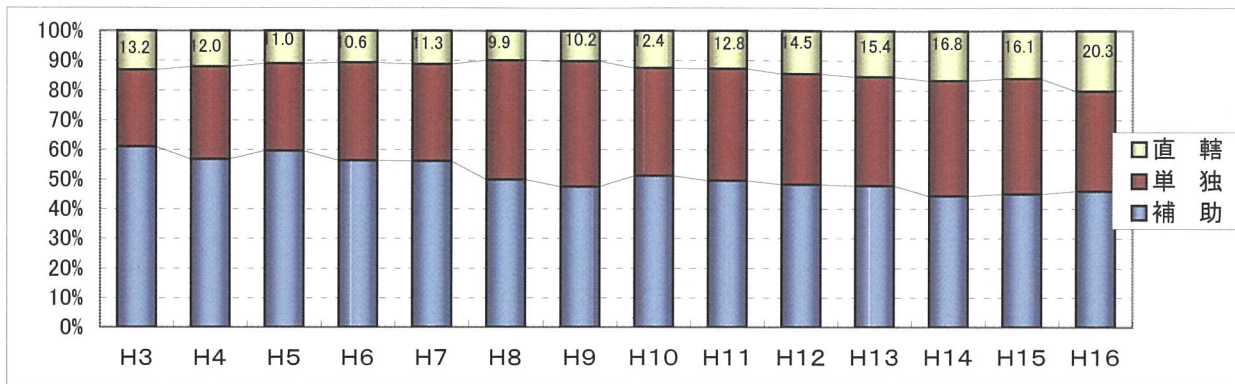
データウォッチング

本県の社会資本整備の状況等をデータで見るコーナー。今回は、**県土整備部普通建設事業費の構成割合の推移について、みてみましょう。**

これまでは、厳しい財政状況の中であっても、直轄事業負担金につきましては優先的な予算確保に努めてきたところですが、当部における平成16年度予算では、部全体予算に占める割合は20%となっており、平成8年度の9.9%に比ベシアは倍増しております。今後の厳しい予算運営において、補助事業や直轄事業負担金について必要な予算を確保するため、更なる事業の「選択」と「集中」と同時に、透明性、公平性を高め「知恵」と「工夫」による、より効率的な予算執行を一段と強めて参ります。

本県では昨今の厳しい財政状況から、平成16年度の公共事業予算では、平成14年度比の30%削減とされたところであり、来年度の予算につきましても、厳しい歳入見込みとなることから、さらに5%程度の削減が見込まれているところでもあります。

岩手県県土整備部普通建設事業費の構成割合の推移（最終予算ベース）



土木建築作品

Vol. 5 田老堤防
Taro-Teibo

県民に親しまれている文化的価値の高い土木建築作品を紹介するコーナー

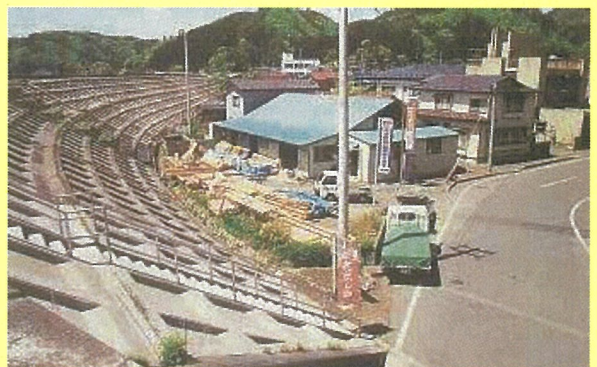
河川・海岸編

【田老堤防等津波堤防】

岩手県沿岸は、古来から、繰り返し地震津波の襲来を受けてきています。田老町でも、明治29年の明治三陸地震津波では、全人口の73.1%にあたる1,875人が津波で死亡し、昭和8年三陸地震津波では、死者520名、行方不明者452名が犠牲になるなど、甚大な被害を経験しています。この津波から、沿岸に暮らす人々の生命財産を守る施設として、岩手県沿岸には、大きな堤防などの海岸保全施設が、約55km整備されています(整備率69.6%:H16.3月末現在)。

明治42年に完成した、高さ10.0m長さ2443mの威容を誇る田老堤防もその中のひとつです。完成以来、30年余にわたり、田老の町を守ってきたこととなります。

これからは、施設の整備を推進することも大切ですが、津波情報の伝達をより充実することや、住民の避難意識を高揚していくことなどのソフト対策を合わせて進めていくことがより重用となってきています。



「いわての土木遺産100選」((財)岩手県土木技術振興協会発行)